

製品名: KCNQ4 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab12948**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ELISA 1:2000-1:20000
分子量	80kDa

抗原情報

遺伝子名	KCNQ4
別名	KCNQ4; Potassium voltage-gated channel subfamily KQT member 4; KQT-like 4; Potassium channel subunit alpha KvLQT4; Voltage-gated potassium channel subunit Kv7.4
遺伝子 ID	9132.0
SwissProt ID	P56696
免疫原	抗血清はヒト KCNQ4 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 644-693

背景

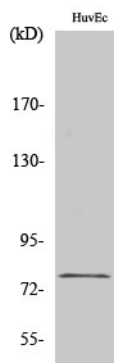
この遺伝子によってコードされるタンパク質はカリウムチャネルを形成し、特に蝸牛の感覚細胞における神経興奮性の調節に重要な

役割を果たすと考えられています。このチャンネルによって生成される電流は、M1 ムスカリン性アセチルコリン受容体によって阻害され、新規抗てんかん薬であるレチガピンによって活性化されます。コードされるタンパク質は、KCNQ3 遺伝子によってコードされるタンパク質と共存することで、ホモ多量体カリウムチャンネル、あるいはヘテロ多量体カリウムチャンネルを形成する可能性があります。この遺伝子の欠陥は、常染色体優性遺伝性の進行性難聴である非症候性感音難聴 2 型 (DFNA2) の原因となります。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする 2 つの転写バリエーションが見つかっています。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月], 代替製品: 追加のアイソフォームが存在すると思われる, 疾患: KCNQ4 の欠陥は、非症候性感音難聴常染色体優性 2 型 (DFNA2A) [MIM:600101] の原因である。DFNA2A は感音難聴の一種である。感音難聴は、内耳の神経受容体、脳への神経経路、または音情報を受信する脳の領域の損傷によって起こる。、ドメイン: セグメント S4 はおそらく電圧センサーであり、3 つおきの位置に一連の正電荷アミノ酸が並ぶことが特徴です。、機能: ニューロンの興奮性の調節におそらく重要である。蝸牛の感覚細胞の興奮性の調節に関与するカリウム電流の基礎となっている可能性がある。KCNQ4 チャンネルはリノピルジンを、XE991、ベプリジルによって阻害されますが、クロフィリウムは有意な効果を示しません。ムスカリン作動薬オキソトレモリン-M は、クローン化された KCNQ4 チャンネルを M1 ムスカリン受容体と共発現させた CHO 細胞において、KCNQ4 電流を強く抑制します。、その他: アフリカツメガエル卵母細胞において、KCNQ4 変異体を単独 (ホモマルチマー) または野生型 KCNQ4 と 1:1 の比率で組み合わせて (mut/wt ホモマルチマー) 発現させることにより、変異誘発実験を行いました。これは、ヘテロ接合性 DFNA2 患者の状況を模倣するためです。、オンライン情報: 遺伝子ページ, 類似性: カリウムチャンネルファミリーに属します。KQT サブファミリー。、細胞内局在: 蝸牛外有毛細胞の基底膜に位置する。、サブユニット: KCNQ3 とヘテロ多量体を形成する可能性がある。、組織特異性: 蝸牛の外有毛細胞に発現するが、内有毛細胞には発現しない。心臓、脳、骨格筋でわずかに発現する。、

研究分野

-

画像データ



KCNQ4 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析